

残暑がいつそう身にこたえる毎日ですが、皆さんいかがお過ごしでしょうか。さて今回のお客様は空手道部に所属し、看護学の学びとスポーツの両立を目指して努力している小塚ゆうさん、小塩唯莉さん（看護1年）と空手道部コーチの辻紫帆さんです。本学を志望した理由や学生生活の様子などを伺いました。

初めに本学の志望動機を伺うと「高校卒業後は東京で看護の勉強をしたいと思っていました。でも5歳から続けてきた空手を辞めるのはもったいないと思っていたところ本学を知り、オープンキャンパスで雰囲気の良いさを感じ志望しました」（小塚）「小さい時から看護師になりたい夢がありました。小学校2年生から空手を続けていて、両方を追いつけられる大学として選びました」（小塩）とのこと。看護師を目指したきっかけは「親が看護師で幼少期から身近に感じていました。高校時代に骨折した際、寄り添ってくれた姿に憧れました」（小塚）「小4で入院した時、優しく寄り添ってくれた姿が素敵でした」（小塩）と二人とも看病してもらった体験が動機になっていました。クラブと学業の両立については「道場は中津川キャンパスなので、何かと時間が足りません。毎日の隙間時間を上手く活用して課題や勉強に取り組んでいます」（小塚）「最初は大学生活のリズムが作れず大変でした。最近は慣れてきて、優先順位を付けながら取り組んでいます」（小塩）とのこと。

辻コーチからは「クラブの方針は、基本的には学業優先です。5限がある時は、課題やレポートを仕上げることに進んで取り組ませています。また選手としては、二人とも真面目でメンタルが強く、技術レベルも高いです。小塚さんは負けず嫌いで、積極的に前に出て行く気持ちの強さが特徴です。小塩さんは、状況判断に優れ、冷静な所が特徴です」とのことでした。

最後に今後の目標を伺うと「クラブでは稽古をしっかりと積み重ねて、全ての大会において入賞を目指したい。学業では計画的に努力して頑張りたい」（小塚）「毎日の練習を大切にして個人、団体でも全国優勝したい。学習習慣を身につけ、国家試験の合格を目指したい」（小塩）とのことでした。

今回の取材を通じて、二人の礼儀正しさや競技に向き合う真摯な姿勢から、日頃の鍛錬の成果を感じることができ、「真・善・美」の精神が伝わりました。看護師になる夢と全国制覇への挑戦。その両方を追いつける二人の姿から、文武両道を実践する学生の力強さを感じました。#真剣味

取材後記：稽古に勉強にと励むお二人の楽しみは、友達とごはんを食べたり遊びに出かけること。楽しい時間も大切に充実した日々を過ごされていることがわかりました。（き）



左から、私、小塩さん(御殿場西)、小塚さん(学校法人松韻学園福島)、辻さん
※ () 内は出身校